

平成 29 年度
多賀城市自治会
課題・取り組み事例調査 報告書

多賀城市市民活動サポートセンター

はじめに

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、当センター）は、地域の困りごと解決や魅力の向上を図り、地域をより良くしていくために活動するNPOを応援する施設です。しかし、地域を良くしていくためには、NPOの力だけでは対応しきれません。企業や行政、学校、そして自治会・町内会のみなさんがそれぞれの強みを活かし、協力することで、より効果的に地域づくりを進めることができます。

当センターでは、こうしたさまざまな立場の人たちが連携して地域づくりを進めていくための場をつくっていきます。そのために、まずは各セクターの立場から見て、地域にどういった困りごとや魅力があるのかを明らかにする調査を実施しました。

本調査では、地域のことに詳しい自治会・町内会のみなさんに地域のことや自治会・町内会運営のことについてお聞きしました。また、平成30年3月14日（水）実施の「みんなで考えよう！多賀城の地域づくり 第2部 多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」では、調査から見えた地域の困りごとをもとに、地域のことをより深く考えるワークショップを実施しました。

本報告書では、調査の集計・分析結果とワークショップの結果をみなさんにお知らせし、今後の自治会・町内会運営や地域づくりの参考、そしてさまざまな人たちが連携するきっかけにしたいと思います。

平成 29 年度 多賀城市自治会 課題・取り組み事例調査 報告書 目次

はじめに	1
I. 調査概要	
1. 調査目的	3
2. 調査方法	3
(1) アンケート調査	3
(2) ヒアリング調査	3
3. 回答地区の内訳	4
4. 実施主体等	4
II. アンケート及びヒアリング調査	
1. 地区の特徴と資源	5
(1) 住民・世帯の特徴	5
(2) 人口構成と地区の特徴	6
(3) 地区の資源	8
2. 自治会運営の課題	12
(1) 自治会運営において困っていること・特に解決したいこと	12
(2) 人口構成と自治会運営の課題	14
(3) 役員のなり手の有無	18
3. 地域の課題	20
(1) 暮らしの中での課題	20
(2) 支援が必要な人・気がかりな人	22
III. 「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」報告	
1. 「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」について	23
(1) 実施経緯	23
(2) 実施概要	23
2. ワークショップについて	23
(1) ワークショップの手法	23
(2) 選定した課題	23
(3) グループワークにおける年代・性別ごとの課題の優先順位	24
(4) 結果の分析	24
おわりに	27

参考資料 多賀城市自治会 課題・取り組み事例調査 調査票

I. 調査概要

1. 調査目的

各自治会・町内会長から自治会運営の課題や暮らしの中の課題、課題解決のための取り組み事例をうかがい、今後、多賀城市で取り組むべきことや地域づくりの担い手である自治会において必要なことを明らかにするために調査を実施しました。また、よりよい地域づくりや自治会運営を進めていくために必要となる地区同士の連携の可能性を探ります。

2. 調査方法

(1) アンケート調査

対 象 : 多賀城市内の自治会・町内会長

配 布 数 : 47 地区 (自治会の数としては 46 地区)

回 収 数 : 42 地区 (回収率 : 89.4%)

実 施 期 間 : 平成 29 年 9 月 8 日 (金) ~ 10 月 6 日 (金)

※実施期間外に提出のあった地区も集計対象としました。

調 査 方 法 : 郵送によるアンケート調査 (選択・記述式)

調査テーマ : 自治会運営の課題

暮らしの中の課題、気がかりな方

自治会内の部会、他団体との連携

自治会で行っている取り組み

(2) ヒアリング調査

対 象 : 多賀城市内の自治会長・自治会役員

実 施 : 3 地区

実 施 期 間 : 平成 30 年 1 月 30 日 (火) ~ 2 月 8 日 (木)

調 査 方 法 : 当センタースタッフによる聴き取り

調査テーマ : 子どもの活躍の場

若い世代の関わり

役員の担い手

ゴミ出しのルールについて

3. 回答地区の内訳

ご回答いただいた行政区の人口・高齢者率の内訳は以下のとおり

行政区の高齢者率（65歳以上の住民の割合）

20%未満	20%以上 25%未満	25%以上
9 地区	18 地区	15 地区

※平成 27 年 3 月 31 日現在

参考：多賀城市地域福祉計画（第 3 期）資料編

行政区の人口

1,000 人未満	1,000 人以上 2,000 人未満	2,000 人以上
18 地区	16 地区	8 地区

※平成 30 年 3 月 31 日現在

参考：住民基本台帳人口集計表

人口と高齢者率の分布（縦軸：人口 横軸：高齢者率）

	20%未満	20%以上 25%未満	25%以上
1,000 人未満	3 地区	6 地区	9 地区
1,000 人以上 2,000 人未満	3 地区	8 地区	5 地区
2,000 人以上	3 地区	4 地区	1 地区

4. 実施主体等

実施主体：多賀城市

実 施：特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

協 力：東北学院大学地域共生推進機構

Ⅱ. アンケート及びヒアリング調査

1. 地区の特徴と資源

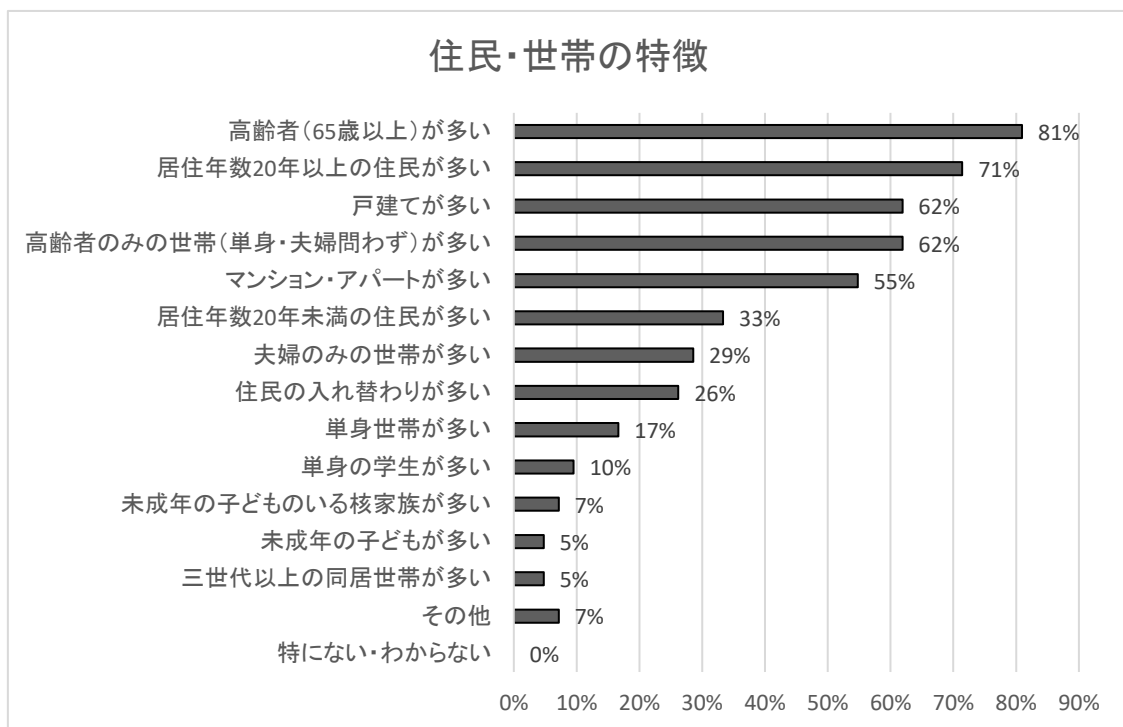
(1) 住民・世帯の特徴

【設問内容】

- ・ 貴地区の住民・世帯の特徴を教えてください。(選択式・いくつでも可)

【グラフの読み方】

- ・ 該当する選択肢に○をつけた地区の割合です。たとえば、81%の地区が「高齢者が多い」と回答した、という読み方になります。



【その他の記述】

- ・ 同じ地区の中でも班ごとで特徴に偏りがある。

集計・分析結果

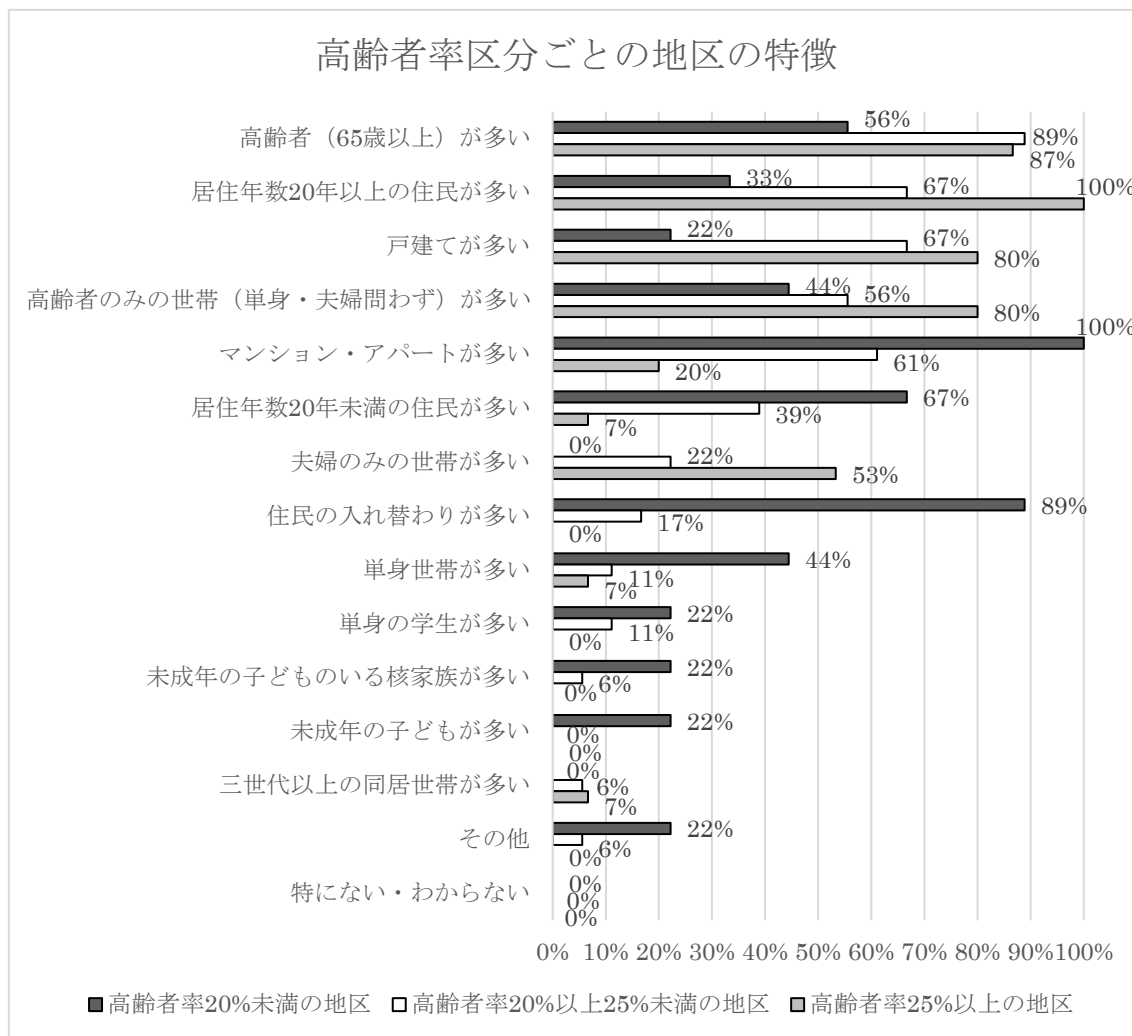
- ・ 81%の地区が「高齢者が多い」、71%の地区が「居住年数 20 年以上の住民が多い」と回答しています。多くの地区が、**高齢者と長く居住している住民が多い**ようです。
- ・ 10%の地区が「単身の学生が多い」、7%の地区が「未成年の子どもがいる核家族が多い」、5%の地区が「未成年の子どもが多い」、と回答しており、子ども、子育て層、学生といった若い世代が多い地区もあります。
- ・ 実際の高齢者や子どもの人口と、自治会長の実感に差がある地区もあります。**地域の行事にどの年代が関わっているか、地域に住民以外の人たちの出入りがあるか**によっても自治会長の実感は変わってきます。

（２）人口構成と地区の特徴

①高齢者率区分ごとの地区の特徴

【グラフの読み方】

- ・高齢者率区分ごとの地区の特徴です。たとえば、高齢者率 20%未満の地区の内、56%の地区が「高齢者が多い」と回答した、という読み方になります。



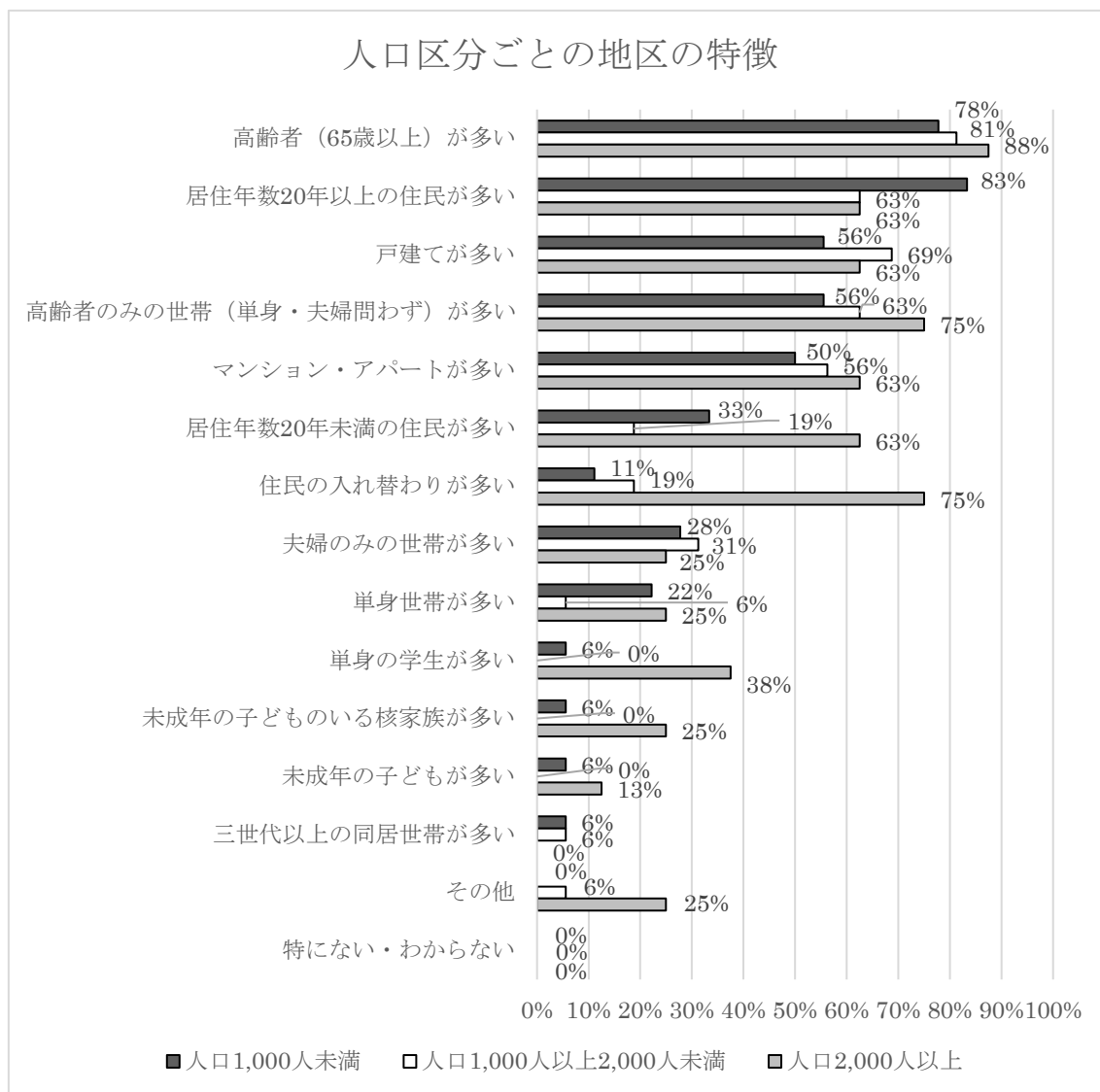
集計・分析結果

- ・高齢者率が高い地区は、「居住年数 20 年以上の住民が多い」「戸建てが多い」「高齢者のみの世帯が多い」「夫婦のみの世帯が多い」という特徴があります。
- ・高齢者率が低い地区は、「マンション・アパートが多い」「居住年数 20 年未満の住民が多い」「住民の入れ替わりが多い」「単身世帯が多い」という特徴があります。
- ・高齢者率 25%以上の地区でも 13%は高齢者が多いと感じていません。該当地区はいずれも駅に面している地区で、通勤・通学・買い物等で若い世代が出入りすることが多く、相対的に高齢者が多くないと感じることもあるようです。
こうした若い世代の出入りが多い地区では、住民だけでなく、出入りのある若い世代の力も取り込んで地域づくりを行っていくという方法も考えられます。

②人口区分ごとの地区の特徴

【グラフの読み方】

- ・人口区分ごとの地区の特徴です。たとえば、人口 1,000 人未満の地区の内、78%の地区が「高齢者が多い」と回答した、という読み方になります。



集計・分析結果

- ・人口が少ない地区は、「居住年数が 20 年以上の住民が多い」という特徴があります。
- ・人口が多い地区は、「高齢者のみの世帯が多い」「アパート・マンションが多い」「居住年数が 20 年未満の住民が多い」「住民の入れ替わりが多い」という特徴があります。

(3) 地区の資源

①住民の活動場所

【設問内容】

- ・住民が交流やサークル活動、サロン活動などで使っている場所を教えてください。
(選択式・いくつでも可)

【表の読み方】

- ・該当する選択肢に○をつけた地区の数です。「集会所」以外の回答が少なかったためグラフではなく表で示します。

選択肢	回答数
集会所	39 地区
公共施設	10 地区
お店	2 地区
地域に開放された個人宅	1 地区
病院	0 地区
住民が使える場所がない	1 地区
わからない	0 地区
その他	3 地区

【その他の記述】

- ・公園
- ・友達同士で家を訪問している

集計・分析結果

- ・ほとんどの地区は「集会所」を活動場所として挙げています。集会所を挙げなかった地区は、集会所がなく、代わりに公民館等を活動場所としています。
- ・「公共施設」は主に公民館を指している場合が多いですが、市営住宅や災害公営住宅のある地区は、**住宅内の集会所を活用して交流している**場合もあります。
- ・「お店」は生協の集会室を指しての回答でした。今回のアンケートの記述以外に、地域の中にある定食屋や電器屋を地域の人たちが集まる場として活用している事例も、当センターに寄せられています。
- ・「地域に開放された個人宅」は、**個人の家を開放してサロン活動を行っている**事例でした。今回のアンケートの記述以外に、個人宅を開放しての子どもの居場所等の事例も当センターには寄せられています。
- ・後述の「自治会運営における課題」では、29%の地区が「集会所がない、もしくは小さい」と感じています。集会所で賄えない分は、集会所以外の場の活用で補うこともできます。

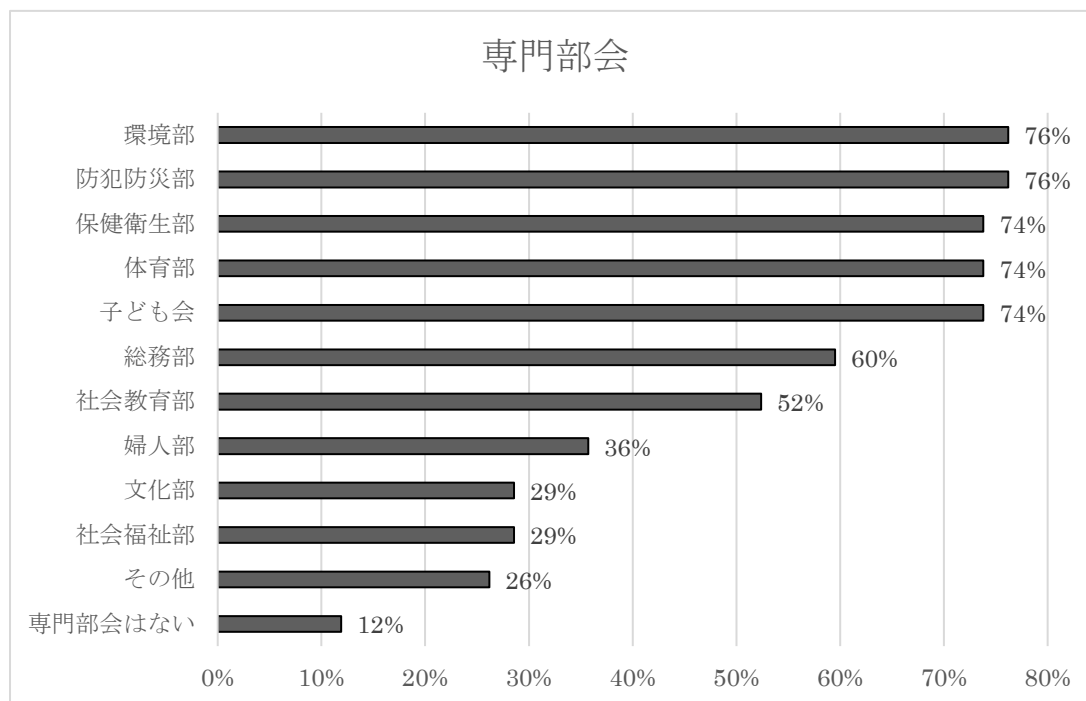
②専門部会

【設問内容】

- ・貴自治会にある専門部会を教えてください。（選択式・いくつでも可）

【グラフの読み方】

- ・該当する選択肢に○をつけた地区の割合です。たとえば、76%の自治会に「環境部」があるということになります。



【その他の記述】

- ・ 交通部 ・ 経理部 ・ 広報部 ・ 青年部 ・ 施設管理部

集計・分析結果

- ・「環境部」「防犯防災部」「保健衛生部」「体育部」「子ども会」は7割以上の地区にあります。
- ・「子ども会」については、親子会という名称にして子どものみならず地域住民全員を会員とする地区、小学生部会・中学生部会と年齢ごとに分けた地区もありました。また、ヒアリングによると、子どもが参加せず、参加者の大半が保護者のみとなっている地区もあるようです。
- ・専門部会がない地区もあり、中でも世帯数が少ない地区では、住民全員に声掛けし全員が地区のことに関わっている事例もあるようです。

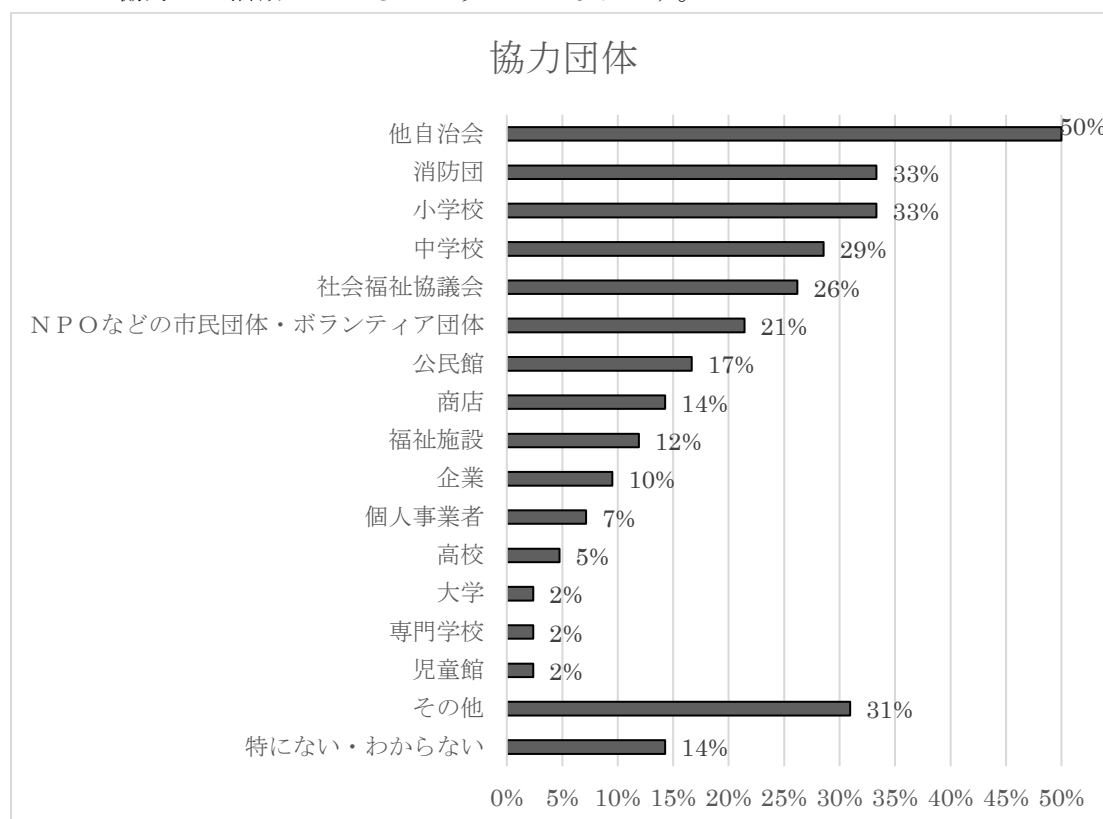
③協力団体

【設問内容】

- ・貴自治会と協力して活動している団体を教えてください。(選択式・いくつでも可)

【グラフの読み方】

- ・該当する選択肢に○をつけた地区の割合です。たとえば、50%の地区が「他自治会」と協力して活動しているということになります。



【その他の記述】

- ・婦人会 ・長寿会 ・地域包括支援センター ・興農組合 ・日赤奉仕団

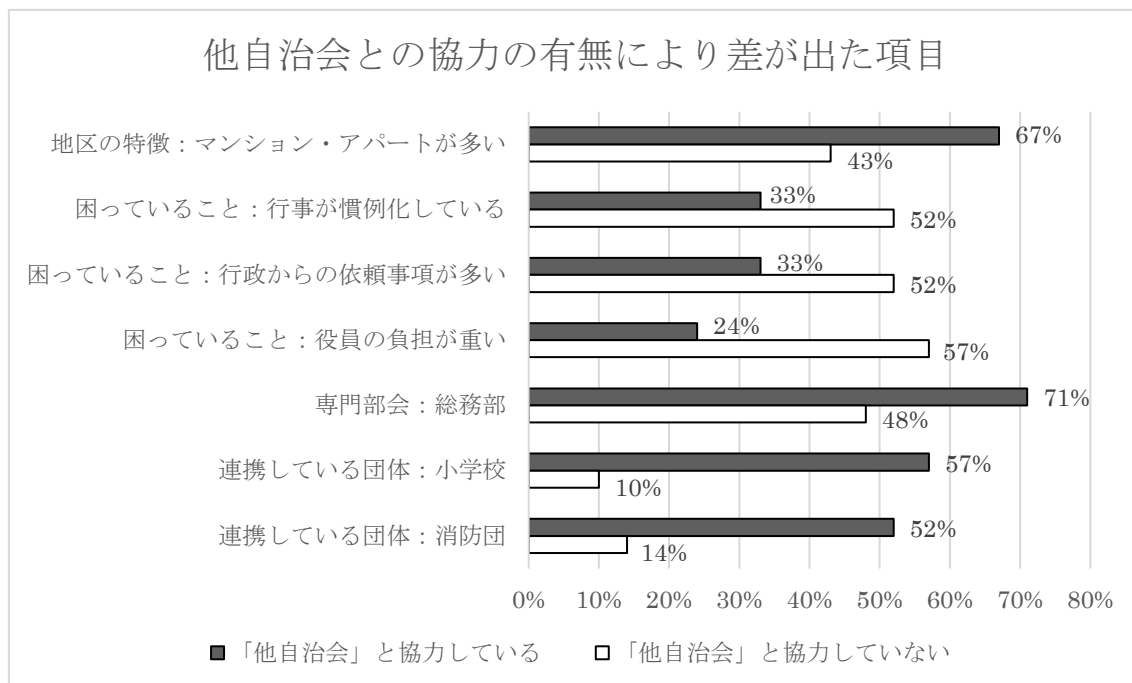
集計・分析結果

- ・半数が「他自治会」と協力して活動しており、夏祭りや敬老会といった行事の共催、会話等で情報交換しているといった例が挙がりました。集会所の共同利用や多賀城市広域連携事業がきっかけとなった地区、**情報交換や仕事の効率化**といったメリットから協力している地区がありました。
- ・「消防団」「小学校」「中学校」や「その他」の中で挙がっている団体の多くがその地域の中に根付いた団体であり、地域の中のつながりを活用している地区が多いことがうかがえます。
- ・一方で「高校」「大学」「専門学校」「児童館」等の特定の地区にしかない団体と協力している例は少ないようです。

④他自治会との協力の有無

【グラフの読み方】

- ・ 選択式設問の中から、『他自治会』と協力している」に該当する地区と該当しない地区の回答割合に差が出た項目を掲載します。たとえば、「他自治会と協力している」に該当する地区の内、地区の特徴について「マンション・アパートが多い」と回答した割合は67%となります。



集計・分析結果

- ・「役員の負担が重い」は、他自治会と協力している地区の回答割合が低くなりました。行事等を協力することで役員の仕事が分散されていると考えることができます。
- ・「行事が慣例化している」は、他自治会と協力している地区の回答割合が低くなりました。地区間の情報交換や協力しての行事实施によって、多様なアイデアが得られると考えることができます。
- ・「行政からの依頼事項が多い」は、他自治会と協力している地区の回答割合が低くなりました。前述の「役員の負担が重い」と同様に、仕事の分散によって負担感が減っていると考えられます。
- ・「消防団」「小学校」と連携している地区は、他自治会と協力している地区の回答割合が高くなりました。複数の地区をまたがって消防団が結成されていたり、小学校区単位で活動している場合も多く、その分、地区同士の連携もしやすいようです。

2. 自治会運営の課題

(1) 自治会の運営において困っていること・特に解決したいこと

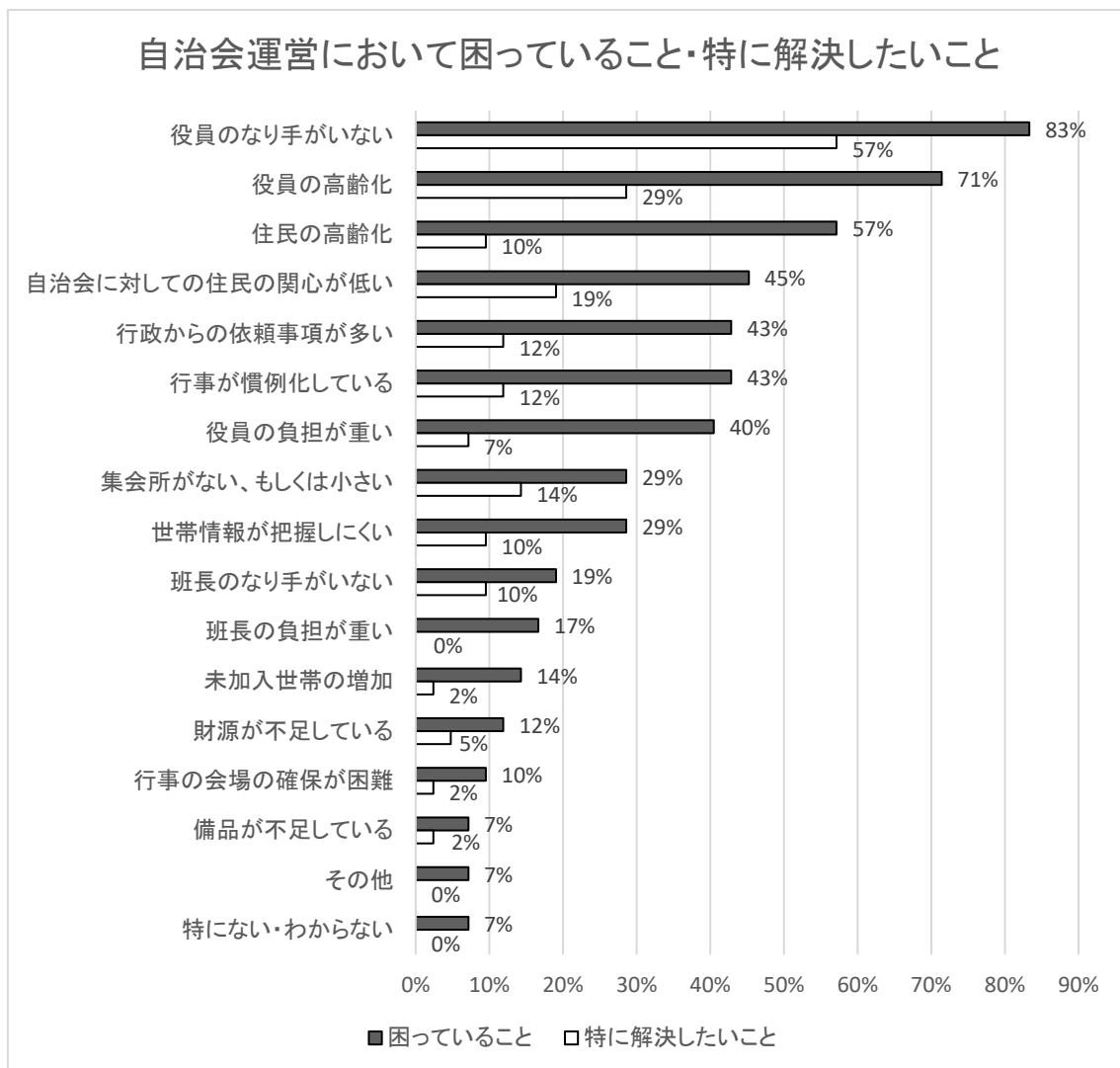
【設問】

- ・貴自治会運営において、困っていること、改善したいことを教えてください。
(選択式・いくつでも可)
- ・特に解決したいと思うことを3つ教えてください。(選択式)

【グラフの読み方】

- ・『困っていること』の割合は、該当する選択肢に○をつけた地区の割合、『特に解決したいこと』の割合は、該当する選択肢の中から、特に解決したいこととして選んだ地区の割合を示しています。

たとえば、83%の地区が『困っていること』として「役員のなり手がいない」と回答し、57%の地区が『特に解決したいこと』として「役員のなり手がいない」と回答した、という読み方になります。



【その他の記述】

- ・マンション住民の自治会加入者が少ない。
- ・反対意見も多く、会議等がなかなか進まない。

集計・分析結果

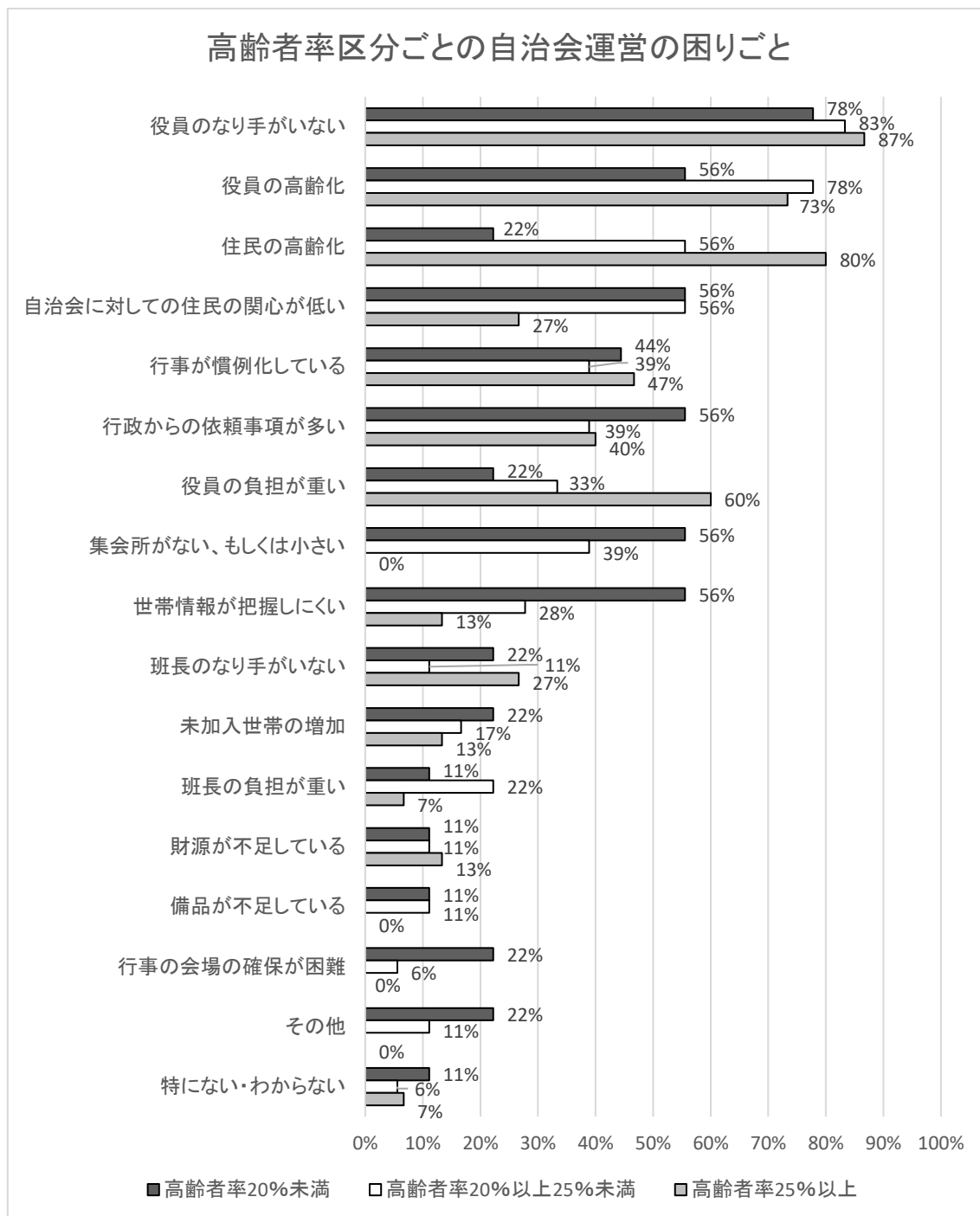
- ・『困っていること』『特に解決したいこと』の割合に差があるほど、困ってはいるが解決しようとは思っていない・優先事項とはしていない、と読み取ることができます。
- ・「役員のなり手がいない」は『困っていること』『特に解決したいこと』が共に高く、多賀城市全体として考えていくべき課題と言えます。
- ・「役員のなり手がいない」については、ヒアリングによると、地域の商店会の人も自治会運営に参加したり、役員になってもらったことがあるという地区もありました。また、まずは役員になってもらうのではなく、夏祭り等で**地域のことに関心のある若い世代に声をかけ、意見交換する場を設ける**等で地域に関わってもらっているという地区もありました。
- ・ヒアリングによると「役員の高齢化」によって**身体的に自治会に係る仕事をする**ことが難しくなったり、**新しいアイディアを生み出すことが難しくなっており**、それが「役員のなり手がいない」と感じる要因となっている地区もあるようです。
- ・「住民の高齢化」は、多くの地区が感じている一方、『特に解決したいこと』として挙げる地区は少ないです。「住民の高齢化」自体を課題として捉えているというよりは、高齢化によって生じる他の課題を解決すべきことと捉えていることが多いと言えます。なお、「**住民の高齢化**」については、**経験やノウハウを持った人たちがいると捉えることもできます**。
- ・「集会所がない、もしくは小さい」「班長のなり手がいない」は、『困っていること』として挙げた地区は少ないですが、『特に解決したいこと』は高くなっています。これは、**困っている地区は少ないが、困っている地区にとっては優先して解決したい課題だ**と言えます。

(2) 人口構成と自治会運営の課題

①高齢者率区分ごとの自治会運営の困りごと

【グラフの読み方】

- ・高齢者率区分ごとの自治会運営の困りごとの回答割合です。たとえば、高齢者率20%未満の地区の内、78%の地区が「役員のなり手がいない」と回答した、という読み方になります。



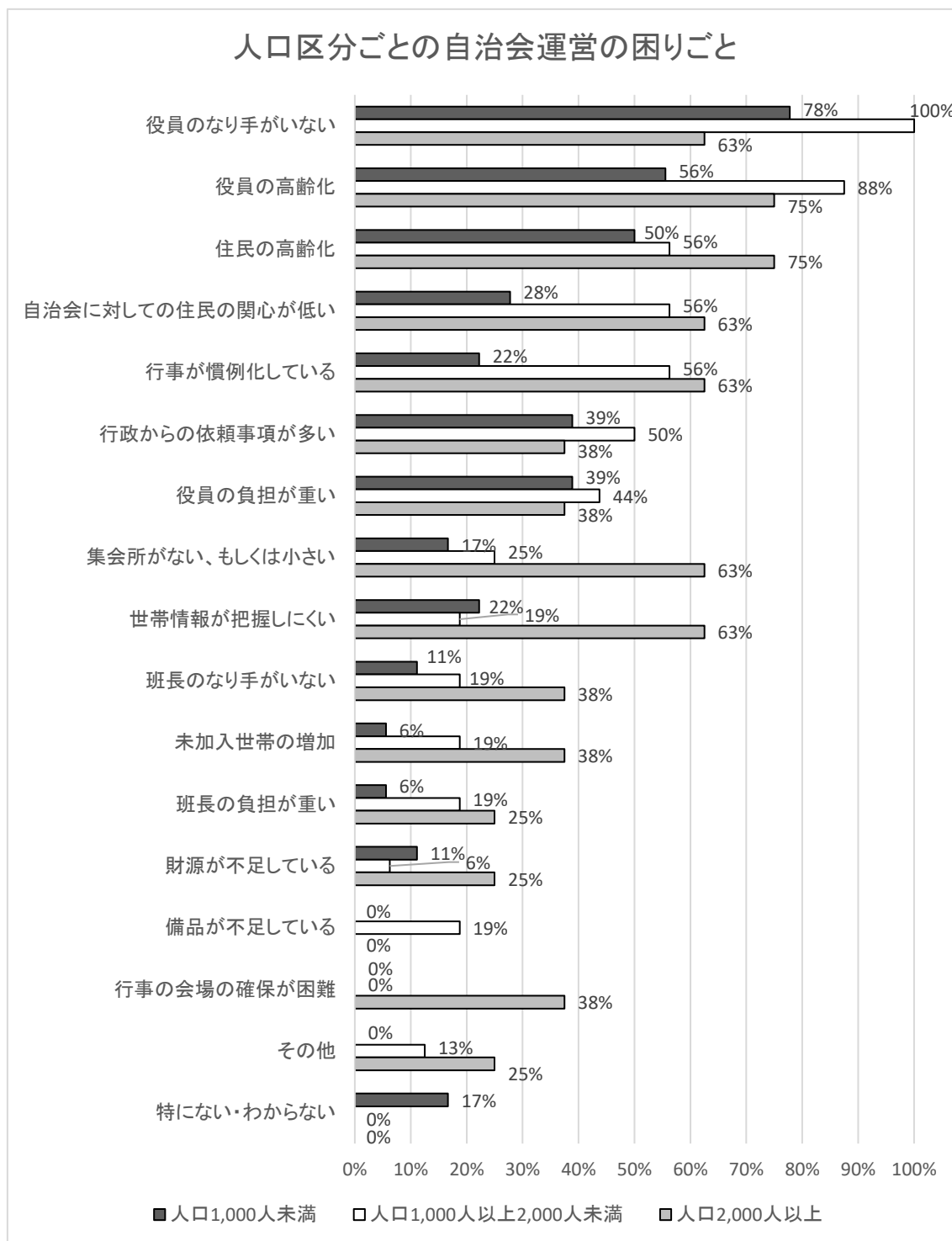
集計・分析結果

- ・「役員のなり手がいない」「役員の高齢化」「役員の負担が重い」については、高齢者率が高い地区の回答割合が高くなっています。ヒアリングによると、**役員の仕事量に加えて、高齢化による心身の負担について心配している**声も挙がっています。
- ・「住民の高齢化」は、自治会長の感じていることと実際の高齢者率が一致しており、高齢者率が高い地区ほど回答割合が高くなっています。
- ・「自治会に対しての住民の関心が低い」については、高齢者率が高い地区の回答割合が低くなっています。アンケートやヒアリングによると、各地区でいかに**若い世代に自治会について関心をもってもらうか、そして自治会運営を担う人材に育てていくか**が課題となっているようです。
- ・「集会所がない、もしくは小さい」「行事の会場の確保が困難」については、高齢者率が低いほど回答割合が高くなっています。こちらは、集会所を建てる土地を確保できるか、公共施設で代用しているか、他地区と共用しているかによって状況が変わるため、一概に高齢者率による傾向とすることはできませんでした。
- ・「世帯情報が把握しにくい」については、高齢者率が低いほど回答割合が高くなっています。アンケートやヒアリングによると、**地域との接点が少ない若い世代やマンション・アパートに住む世帯の状況が把握しにくい**ようです。自治会役員や民生委員が情報共有をしながら状況把握に努めている地区もあります。

②人口区分ごとの自治会運営の困りごと

【グラフの読み方】

- ・人口区分ごとの自治会運営の困りごとの回答割合です。たとえば、人口 1,000 人未満の地区の内、78%の地区が「役員のなり手がいない」と回答した、という読み方になります。



集計・分析結果

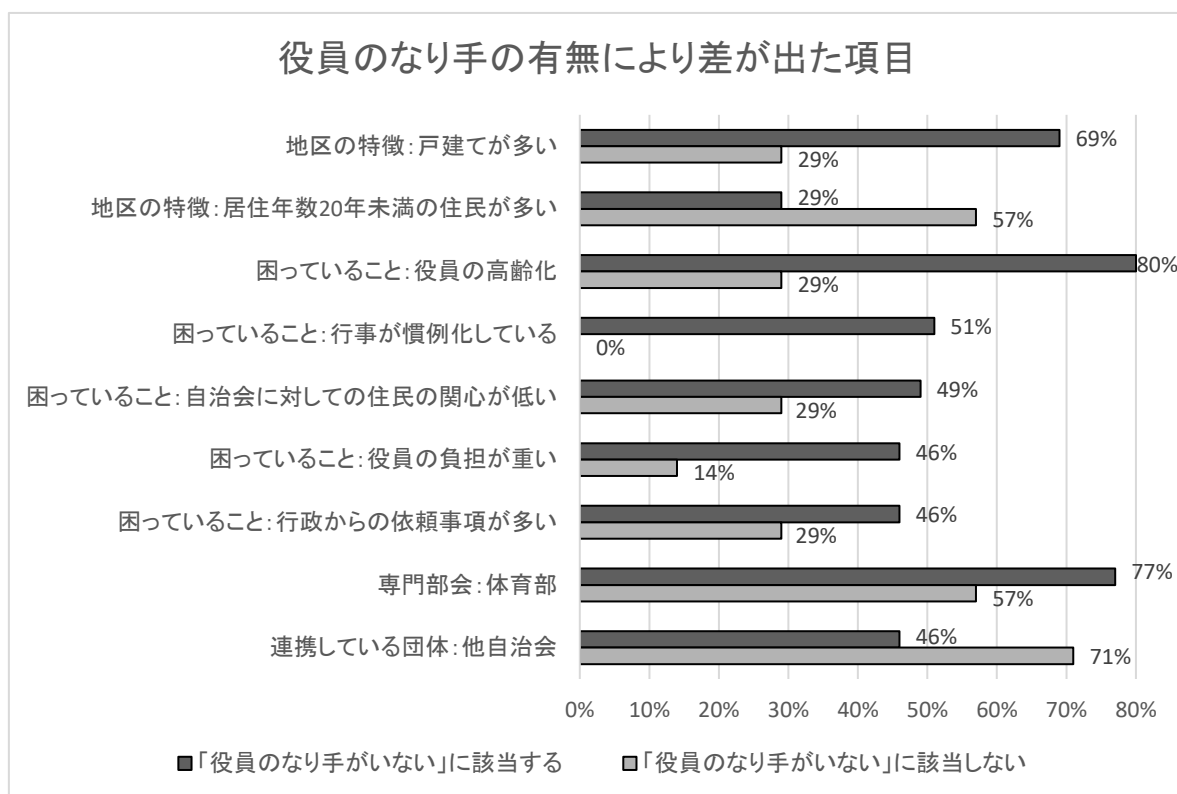
- ・最も回答割合の高かった「役員のなり手がいない」では、人口 2,000 人以上の地区は比較的回答割合が低くなりました。理由として、**単純に人口が多いことで役員になる人材が多い**ことが挙げられます。ただし、63%は「役員のなり手がいない」を挙げています。
- ・一方で「班長のなり手がいない」「班長の負担が重い」は人口が多いほど、回答割合が高くなりました。理由として、人口が多ければその分班長の人数と仕事量も多いことが挙げられます。
- ・「集会所がない・もしくは小さい」「行事の会場の確保が困難」については、人口が多いほど回答割合が高く、人口が多ければその分行事の参加者が増え、集会所や行事の会場が手狭となってしまいます。ヒアリングによると、人口に比例して集会所が大きいわけではなく、集会所や行事の会場に関しては、前述のように建てる土地や他地区との共用、公共施設の有無によって事情が異なります。
- ・人口が多い地区は、「自治会に対しての住民の関心が低い」「世帯情報が把握しにくい」「未加入世帯の増加」の回答割合が高くなっています。人口が多い地区は「アパート・マンションが多い」という特徴があり、アンケートやヒアリングによると、アパート・マンション住民の自治会未加入者が多く、**いかにアパート・マンションの住民に自治会や地域のことに関心を持ってもらい、加入してもらうかがポイント**となっているようです。

(3) 役員のなり手の有無

「役員のなり手がいない」という課題を解決するヒントを得るために、該当する地区と該当しない地区の他の設問項目の回答差をみていきます。

【グラフの読み方】

- ・選択式設問の中から、「役員のなり手がいない」に該当する地区と該当しない地区の回答割合に差が出た項目を掲載します。たとえば、「役員のなり手がいない」に該当する地区の内、地区の特徴について「戸建てが多い」と回答した割合は69%となります。



集計・分析結果

- ・「役員のなり手がいない」に該当する地区は、「戸建てが多い」「役員の高齢化」「行事が慣例化している」「自治会に対しての住民の関心が低い」「役員の負担が重い」「行政からの依頼事項が多い」「体育部（がある）」という特徴があります。
- ・「役員のなり手がいない」に該当しない地区は、「居住年数 20 年未満の住民が多い」「他自治会（と連携している）」という特徴があります。
- ・アンケートやヒアリングによると、役員の高齢化によって心身ともに負担に感じる方が増え、世代交代をしたいと考えているが、なり手がいないという意見がありました。また、役員の負担が重いという認識が広まっていることで次のなり手が現れにくいという意見もあります。
- ・アンケートやヒアリングによると、役員のなり手がおらず、役員が固定化することで行事が慣例化してしまい、行事が慣例化することで特定の住民しか参加せず、それによって自治会に関して住民の関心を得られず、新たな役員の担い手を発掘することができないという循環が生じています。
- ・「役員のなり手がいない」に該当しない地区は、「他自治会（と協力している）」の回答割合が高くなっています。他自治会と協力することで、行事の効率化や仕事の分担がなされ、負担感が軽減していると考えられます。
- ・これらのことから、「役員のなり手がいない」ことに関して 2 つの視点から解決策を探ることができます。まずは、役員の仕事の見直しです。「役員のなり手がいない」に該当する地区は「役員の負担が重い」「行政からの依頼事項が多い」の回答割合も高くなっています。まずは自治会長・行政区長も含めた役員の仕事の整理をすることで、役員の負担、あるいは役員の数自体を減らしていくこともできます。また、可能であれば他自治会等と協力していくことでさらに負担を減らすことができます。
- ・次に自治会に関わる人を増やすことです。自治会への関わり方は「役員になる」ことだけではありません。行事を手伝う人、アイデアを出してくれる人もいます。特に「行事が慣例化している」については役員だけでなく、たとえば自治会に関心を持ってもらいたい層のアイデアを取り入れていくこともできます。アンケートやヒアリングによると、若い世代の人たちを誘い、役員会とは違う意見交換の場を設けている地区や、広く住民を集めて自由に話し合う場を設けている地区もありました。こうした場を設けて、自治会に関わる住民の数を増やし、役員にならずとも手伝ってくれる人を生み出していけば、役員の負担は減っていきますし、場合によっては役員のなり手となる人も出てきます。

3. 地域の課題

(1) 暮らしの中での課題

【設問】

- ・貴地区での暮らしの中で住民が課題に感じていることを教えてください。
(記述式・いくつでも可)

【表の読み方】

- ・回答数は、記述で挙げた課題の内容を大まかに分類し、その分類に関する記述をした地区の数です。
- ・「課題の主な内容」は、記述された内容です。

分類	回答数	課題の主な内容
ゴミ集積所・ゴミ出し	8 地区	・ゴミ集積所の維持管理(清掃等)が住民の負担となっている。 ・ゴミ集積所の場所の見直しが必要。 ・ゴミ出しのルール(分別、出す曜日)が徹底されていない。 ・不法投棄がある。
住民の交流・コミュニケーション	7 地区	・隣近所、住民同士のコミュニケーションが充分とれていない。 ・近所付き合いの少ない人がどう地域とコミュニケーションをとるか。 ・転勤・転入者等の地域への関心が薄い。
集会所等の活動場所の整備	5 地区	・集会所の建設。 ・集会所の備品・設備が不十分。 ・集会所の維持管理。
高齢化	4 地区	・高齢化による町内会(地域コミュニティ)の存続。 ・高齢に伴う役員・班長の不足。
空家・空き地	4 地区	・空き家が放置された状態になっている。 ・治安が悪化することが懸念される。
一人・二人暮らしの高齢者	3 地区	・一人暮らしの高齢者が増加している。 ・一人暮らしの高齢者の状況が把握できていない。
環境問題	2 地区	・周辺施設での公害発生の不安。
道路・河川等の整備	2 地区	・道路の交通安全対策が不十分。 ・河川の改修。
若い世代の地域への関わり	2 地区	・仕事や子育てなどで忙しい中、どう若い人に関わってもらうか。
病院・買い物等の移動困難	2 地区	・病院や買い物の場所が遠距離にある。
行事・共同作業参加者の減少	1 地区	・公園清掃等の共同作業への住民参加が減少している。
災害時の避難	1 地区	・介護が必要な方の避難をどうするか。 ・洪水時の災害対策本部の設置場所。
防犯・交通安全	1 地区	・防犯・交通安全対策が必要。

集計・分析結果

- ・「ゴミ集積所・ゴミ出し」について記述した地区は、8 地区と最も多くなりました。記述内容は集積所等の設備の問題とゴミ出しルールに分かれています。特にルールについてはヒアリングの中で、そもそもゴミ出しのルール・マナー（特に捨てる場所、分別方法、出す時間）を知らないのではないか、情報が届いていないののではないか、地域の情報が届きづらい層（単身世帯、マンション・アパート等）へ情報を届ける仕組みも必要という意見が挙がりました。
また、知っていてもルール・マナーを守っていない人たちについて、顔の見える関係をつくっていたり、ゴミ集積所もみんなで使う場所だということを知ってもらえればよいのではないかという意見が挙がりました。
- ・「住民の交流・コミュニケーション」について記述した地区は7 地区となりました。交流といっても、アンケートやヒアリングでは、広く住民交流、世代間交流、同世代交流、隣近所の交流、転入者との交流とさまざまな交流が挙がりました。誰と誰の交流を図るか、交流によって何を生み出すのかを具体化していくことでより効果的に事業が実施できます。

(2) 支援が必要な人・気がかりな人

【設問】

- ・貴地区の中で支援した方がよい人、気がかりな人を教えてください。

(記述式・いくつでも可)

【表の読み方】

- ・回答数は、記述で挙げた支援した方がよい人や気がかりな人を大まかに分類し、その分類に関する記述をした地区の数です。
- ・「課題の主な内容」は、記述された内容です。

分類	回答数	課題の主な内容
一人・二人暮らし・こもりがちな高齢者	15 地区	・こもりがちな高齢者の方が外に出る機会が必要。 ・一人暮らし、こもりがちな高齢者への声かけが必要。 ・近所と交流がない方が、死後 10 日経って家族に発見された。 ・一人暮らしの高齢者や高齢夫婦の買い物が心配。 ・近隣との関わりがなく、町内会からも退会した一人暮らしの高齢者がいる。
その他支援が必要な人への配慮	6 地区	・支援が必要な人とはだれか。また、そういった人を誰が支援するのか分からない。 ・認知症の高齢者が増えた。 ・精神障がいのある住民が増えている。 ・災害時に地区内の福祉施設入居者とどう関わるか。 ・うつ病の方がいる。
高齢者以外での単身者・地域との接点を持っていない方	4 地区	・回覧や郵便を受け取らない方がいる。 ・単身世帯が多くなってきた。 ・居場所のない子どもや若い世代の実態がつかめない。
情報がつかめていない	2 地区	・住民の入居実態が把握できていない。
自治会長・役員の負担	2 地区	・会長への批判がある。 ・何でも会長にお願いする住民がいる。

集計・分析結果

- ・「一人・二人暮らし・こもりがちな高齢者」について記述した地区が最も多くなりました。高齢化に伴い、地区全体のこととして捉えている回答と具体的に特定の方を想定した回答がありました。記述によると、**食事会やお茶飲み会を開催して参加を呼び掛けたり、民生委員をはじめとした支援者と連携している地区もありました。**
- ・次いで多い回答が「その他支援が必要な人への配慮」についてでした。認知症、精神障がい、福祉施設入居者について、そもそも支援が必要な人の捉え方や誰が支援するべきか、という記載がありました。この点は、自治会単独ではなく、**行政や各施設との情報共有、場合によってはNPOとの連携**も必要となります。

Ⅲ. 「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」報告

1. 「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」について

(1) 実施経緯

平成 29 年度に多賀城市の関係課（介護福祉課、社会福祉課、生涯学習課、地域コミュニティ課）、多賀城市社会福祉協議会、地域包括支援センター、多賀城市民（行政区長、児童民生委員等）、当センターで構成された「自然な支えあいを広げる実行委員会」が立ち上がり、自然な支えあい事例を広める講座や発表会を企画しました。支えあいにおいて解決できる課題を知ること、自治会・町内会の取り組みも地域の支えあいにおいて重要であることから、支えあい事例を学ぶための「私たちにもできる地域の支えあい実践塾“お宝発表会”（企画：実行委員会）」を第 1 部、自治会・町内会の課題や取り組みを知り、地域のことを考える「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会（企画：当センター）」を第 2 部とした「みんなで考えよう！多賀城の地域づくり」が実施されました。

(2) 実施概要

目 的：調査で明らかになった多賀城の課題や資源を共有する。

年代、性別ごとの『気になる』課題を明らかにする。

日 時：平成 30 年 3 月 14 日（水）13:30～15:00

会 場：多賀城市市民会館（多賀城市文化センター） 展示室

参加者：40 名（自治会・町内会役員、市職員、地域づくりに関心のある方が参加）

内 容：本調査の報告、地域の『気になること』ランキングワークショップ

2. ワークショップについて

(1) ワークショップの手法

- i. 参加者が 11 の課題（当センターで選定）に対して 1 位～11 位まで順位をつける。
- ii. 年代・性別ごとにグループをつくり、グループで 1 位～3 位まで順位をつける。
- iii. 各グループの順位付けの結果を全体で共有する。

(2) 選定した課題（アンケート回答、ヒアリングで挙がったキーワードに基づく）

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ・子どもへの支援に関すること | ・子育てしている人への支援に関すること |
| ・一人暮らしの高齢者が心配 | ・地域に来て間もない人たちに关すること |
| ・地域の情報を得る機会を増やしたい | ・地域の団体同士の連携に関すること |
| ・ゴミ捨てるのルールに関すること | ・身近な環境美化に関すること |
| ・仲間と集まる場がない | ・多世代が交流できるアイデア |
| ・若い世代(20～50 代)をもっと巻きこみたい | |

(3) グループワークにおける年代・性別ごとの課題の優先順位

30代・男性グループ 1. 身近な環境美化に関すること 2. 子どもへの支援に関すること 3. ゴミ捨てのルールに関すること	20～40代・女性グループ 1. 地域の情報を得る機会を増やしたい 2. ゴミ捨てのルールに関すること 3. 地域に来て間もない人たちに关すること
40～50代・男性グループ 1. 多世代が交流できるアイディア 2. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい 3. 地域の情報を得る機会を増やしたい	50～60代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 地域に来て間もない人たちに关すること 3. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい
50～60代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 多世代が交流できるアイディア 3. ゴミ捨てのルールに関すること	60代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 多世代が交流できるアイディア 3. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい
70代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい 3. 地域の情報を得る機会を増やしたい	70代・女性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい 3. 多世代が交流できるアイディア
70～80代・男性グループ 1. 一人暮らしの高齢者が心配 2. 若い世代（20～50代）を巻き込みたい 3. ゴミ捨てのルールに関すること	※1 グループ 4～5 名程度 9 グループ

(4) 結果の分析（11の課題の内、各グループで3位以内に入った項目について分析した）

①「一人暮らしの高齢者が心配」について

- ・50代以上のグループでは男女ともにすべてのグループで1位として挙がっています。自身の接点のある住民で該当する人がいたり、自治会長・役員という立場で地域を見ていることから、特に心配な点として挙がりやすいようです。
- ・一方で、50代以下のグループでは男女ともに3位以内には入りませんでした。地域の住民との接点が比較的少なく、地域で1人暮らしをしている高齢者の把握がしにくいこと、若い世代は特に、生活する中で自身が困っていること・気になっていることを挙げる傾向にあることが理由として考えられます。

②「多世代が交流できるアイディア」について

- ・40～50代・50～60代の男性グループ、60代・70代の女性グループでランキングに入っています。地域に関わる活動をしている人が多かったこともありますが、**地域での生活にも重点を置いている世代だ**と言えます。

- ・一方で、若い世代は**自身の生活や仕事・友人関係の中のコミュニティに軸足を置いている人も多い**ため、ランキングには入りませんでした。地域の中での多世代交流に参加して欲しい層である若い世代が、多世代交流を望んでいるかどうかは更なる検証が必要です。
- ・また、「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」の前段で行われた「私たちにもできる地域の支えあい実践塾“お宝発表会”」参加者も多く参加していたため、多世代交流の視点の関心度が高くなっていたとも考えられます。

③「地域の情報を得る機会を増やしたい」について

- ・20～40代の女性グループ、40～50代の男性グループ、70代の男性グループでランキングに入っていました。ただし、世代によってランキングに入る理由は異なります。
- ・20～40代の女性グループからは、**自身が地域の情報を持っておらず、もっと知る機会を増やしたい**という声がありました。
- ・一方で、70代の男性グループでは、**地域の情報をもっといろんな人に知ってほしい、発信したい**という声がありました。
- ・若い世代と年配の世代での地域のことを知りたい・発信したいというニーズは確認できました。では**若い世代が知りたい地域の情報は何か、どういう媒体で発信すれば情報にアクセスするようになるか**という検証とアイデアが必要です。

④「ゴミ捨てのルールに関すること」について

- ・30代の男性グループ、20～40代の女性グループ、50～60代の男性グループ、70～80代の男性グループでランキングに入っています。
- ・30代の男性グループ、20～40代の女性グループからは、**自身がゴミ捨てのルールを把握できていない**という声がありました。
- ・一方で、50～60代の男性グループ、70～80代の男性グループからは、**ゴミ捨て場の整備やルール・マナー**についての声がありました。
- ・ゴミ捨てについては、ルールの地域差や個人差によって起こったルール違反が、苦情として自治会長・役員に届くケースもあります。また、誰もが生活の中で目にする公共スペースであるため、より声が挙がりやすいと言えます。
- ・ルールを守らない住民が多いというよりは、**ルールに関する知識や情報が伝わっていない住民がいる**ことも理由の一つです。また、ヒアリングの中でも、「実は以前、ゴミを出す場所を勘違いしていた」という役員の方もいたので、特定の世代に限らず**地域住民みんなでルールを確認できる機会**が必要です。

⑤「若い世代（20～50代）を巻き込みたい」について

- ・40～50代、70代、70～80代の男性グループ、50～60代、60代、70代の女性グループでランキングに入っています。
- ・若い世代の地域参加に期待している人が多いと言えます。今後は、若い世代にどのように参加してほしいのかを明確にすること、仕事や子育てをしていく中で負担のない参加の仕方を検討していくこと、若い世代にどんなニーズがあるのかリサーチしていくことを進め、巻き込むきっかけづくりをしていくことが必要です。

⑥「地域に来て間もない人に関すること」について

- ・20～40代、50～60代の女性グループでランキングに入っています。
- ・多賀城市は県内の市町村では転入率・転出率ともに最も高く、転入者・転出者の多いまちです。※参考：宮城県推計人口年鑑
- ・地域に来て間もない人への情報提供や地域参加の工夫も重要となります。

⑦全体を通して

- ・若い世代は自身の生活の中で気になっていること、困っていることを挙げる傾向が強く、年配の世代は地域の中で気になっていること、地域全体のことを挙げる傾向が強いと言えます。
- ・30代の男性グループから「30代の男性で単身者は、仕事以外の関係が希薄である」との意見が挙がりました。実際に「身近な環境美化に関すること」が1位として挙がっており、2位、3位も自身の生活に関することでした。若い世代が一人暮らしの高齢者の存在が見えにくいように、地域の人たちも30代男性の暮らしの実態が見えにくい状況にあるとも考えられます。
- ・今回のイベントで、世代間で考えていることが違うということが明らかになりました。こうした多様な世代が地域について考える機会を地域の中でも開いていくことで、若い世代の視点も取り入れた地域づくりができます。
- ・ワークショップの各項目については、具体の事例などを挙げているわけではないので、今後はたとえば「一人暮らしの高齢者」について心配なことは何か？」等の掘りも必要です。

おわりに

自治会運営の課題、暮らしの中の課題をアンケート調査とヒアリング調査によって明らかにしてきました。今回の調査は自治会・町内会長を対象としていましたが、別の立場の方を対象としていれば違う結果となったかもしれません。『Ⅲ.「多賀城の地域づくりをもっと深めて考える会」報告』では、年代・性別によっても暮らしの中の課題についての考え方が異なることが分かりました。こうしたさまざまな立場の人が地域について考えていくこと、そして地域の担い手としてどんな関わり方があるのかを考えていくことが必要です。

みなさんの地域にはどんな人たちがいるでしょうか。高齢者、若い人、子ども、子育てをしている人、世話焼きな人、アイデアを持っている人、リーダーシップのある人、手芸が好きな人、料理が趣味の人等、見渡すとたくさんの人たちがいます。

これからの地域づくりには、住民や関わる人が住みやすい・過ごしやすい地域であると同時に、これらの人たちが自分の得意なことを活かして、さまざまな形で地域の中で活躍できるということが必要です。

また、住民や自治会の力だけでは足りない、という場合には隣の地区と協力したり、企業や学校、行政の力を借りることも一つの手法です。また、当センターもぜひ積極的にご活用ください。

今後は、本報告書のみならず、当センターの事業、情報誌、ブログ、さまざまな形で分析・集計結果を発信していきます。ぜひ、みなさんが地域の課題について考え、解決に向かうきっかけとしていただければ幸いです。当センターでも、調査結果をふまえ、自治会のみなさんがより地域づくりを進めていくために必要な支援を考えてまいります。

多賀城市自治会

課題・取り組み事例調査

調査票

調査票のご記入にあたってのお願い ※必ずご確認ください

- 1 設問は裏面から始まります。
- 2 このアンケートは、基本的に自治会、町内会、区、親和会、振興会などのコミュニティ組織（以下「自治会」といいます。）の会長にご回答をお願いします。会長自身が把握していること、感じることを自由にご回答ください。役員など、他の方と相談してご記入いただいても構いません。
- 3 アンケートのご記入に当たっては、総会や役員会などを開き自治会として決議する必要はありません。

自治会名 _____ :

自治会長名 _____ :

電話番号 _____ :

F A X _____ :

メールアドレス _____ :

※上記の連絡手段がない場合は空欄で構いません。

選択式の場合は該当する数字すべてに○をつけてください。記述式の場合は[]内に回答をお書きください。わからない場合、特にないという場合は空欄で構いません。

問 1

貴地区の住民・世帯の特徴を教えてください。(いくつでも可)

※正確な数字を把握されていなくても、会長が把握していること、感じていることを答えて
いただいて構いません。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 未成年の子どもが多い | 2 高齢者（65 歳以上）が多い |
| 3 単身の学生が多い | 4 戸建てが多い |
| 5 マンション・アパートが多い | 6 居住年数 20 年以上の住民が多い |
| 7 居住年数 20 年未満の住民が多い | 8 住民の入れ替わりが多い |
| 9 未成年の子どものいる核家族が多い | 10 三世代以上の同居世帯が多い |
| 11 夫婦のみの世帯が多い | 12 単身世帯が多い |
| 13 高齢者のみの世帯（単身・夫婦問わず）が多い | |
| 14 特にない・わからない | |
| 15 その他 | |

問 2

貴自治会の運営において、困っていること、改善したいことを教えてください。

(いくつでも可)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 役員のなり手がいない | 2 役員の高齢化 |
| 3 役員の負担が重い | 4 班長のなり手がいない |
| 5 班長の負担が重い | 6 住民の高齢化 |
| 7 未加入世帯の増加 | 8 自治会に対しての住民の関心が低い |
| 9 財源が不足している | 10 集会所がない、もしくは小さい |
| 11 備品が不足している | 12 行事の会場の確保が困難 |
| 13 行事が慣例化している | 14 行政からの依頼事項が多い |
| 15 世帯情報の把握がしにくい | 16 特にない・わからない |
| 17 その他 | |

問3

問2の中で特に解決したいと思うことを3つ教えてください。また、解決のために取り組んでいることがありましたら教えてください。(取り組みがなければ空欄でも構いません)

番号[]	取り組み[	]
番号[]	取り組み[	]
番号[]	取り組み[	]

問4

貴地区での暮らしの中で住民が課題に感じていることを教えてください。(いくつでも可)

[		]
---	--	---

問5

貴地区の中で支援した方がよい人、気がかりな人を教えてください。(いくつでも可)

※個人名は出さなくて構いません。こもりがちな高齢者、地域に居場所がない若い方といった書き方をお願いします。

[		]
---	--	---

問6

問4・問5に対して取り組んでいること、工夫していることなどがありましたら教えてください。(いくつでも可)

[		]
---	--	---

問7

貴地区の魅力を教えてください。人、活動、スポットなど何でも構いません。

(いくつでも可)

[		]
---	--	---

問 8

住民が交流やサークル活動、サロン活動などで使っている場所を教えてください。該当する項目に○をつけ、可能な範囲でその場所の名前も教えてください。（いくつでも可）

- | | | |
|---------------|---|---|
| 1 集会所 | [|] |
| 2 公共施設 | [|] |
| 3 お店 | [|] |
| 4 地域に開放された個人宅 | [|] |
| 5 病院 | [|] |
| 6 住民が使える場所がない | | |
| 7 わからない | | |
| 8 その他 | [|] |

問 9

空き家を活用して現在行っていること、これから行ってみたいことがありましたら教えてください。（いくつでも可）

行っていること

[	]
---	---

行ってみたいこと

[	]
---	---

問 10

貴自治会内にある専門部会を教えてください。（いくつでも可）

- | | | | | |
|---------------------------|------------|---------|---------|-------|
| 1 総務部 | 2 文化部 | 3 保健衛生部 | 4 体育部 | 5 環境部 |
| 6 婦人部 | 7 社会福祉部 | 8 防犯防災部 | 9 社会教育部 | |
| 10 子ども会（自治会から独立している場合も含む） | 11 専門部会はない | | | |
| 12 その他 | [|] | | |

問 1 1

貴自治会と協力して活動している団体を教えてください。(いくつでも可)

※地域行事に出店・協賛してもらっている、人をだしてもらっているなどでも構いません。

- | | | | | |
|---------------|-----------------------|----------|--------|--------|
| 1 他自治会 | 2 NPOなどの市民団体・ボランティア団体 | 3 消防団 | | |
| 4 小学校 | 5 中学校 | 6 高校 | 7 大学 | 8 専門学校 |
| 9 企業 | 10 商店 | 11 個人事業者 | | |
| 12 福祉施設 | 13 社会福祉協議会 | 14 公民館 | 15 児童館 | |
| 16 特にない・わからない | | | | |
| 17 その他 | [] | | | |

問 1 2

問 1 1 でお答えいただいた団体とどのような取り組みを行っていますか？また、連携することとなったきっかけを教えてください。(いくつでも可)

取り組み

[]

きっかけ

[]

問 1 3

今後連携したい組織などがありますか？また、どんな連携をしていきたいですか？

(いくつでも可)

連携したい組織[]

連携したいこと

[]

問 1 4

現在行っている住民交流・世代間交流の取り組みを教えてください。(いくつでも可)

※子どもと高齢者の交流のための夏祭り、新住民と旧住民の交流のためのお茶飲み会、外国人と住民の交流のための日本の遊び体験など具体的にご記入ください。

--

問 1 5

これから必要だと思う住民交流・世代間交流の対象を教えてください。(いくつでも可)

※「〇〇と〇〇の交流」のように具体的な対象をご記入ください。

--

問 1 6

現在行っている高齢者の見守りの取り組みを教えてください。(いくつでも可)

--

問 1 7

現在行っている防災・防犯の取り組みを教えてください。(いくつでも可)

--

問 1 8

その他、力を入れている取り組みがありましたら教えてください。(いくつでも可)

--

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 29 年度 多賀城市自治会 課題・取り組み事例調査 報告書

平成 30 年 3 月発行

発 行 多賀城市

編 集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

協 力 東北学院大学地域共生推進機構

問合せ 多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央 2 丁目 25-3

電話 022-368-7745 FAX 022-309-3706